

那智勝浦町概要

1 地勢

本町は、和歌山県の南東部に位置し、東は黒潮洗う熊野灘に臨み太地町と接し、西は串本町及び古座川町、北は新宮市に接している。内陸には山が迫り、山地と丘陵地を合わせた面積が総面積の90%を占めている。

紀伊山地の南に連なる那智連峰からは那智川、太田川の両河川が熊野灘に注ぎ、海岸部では見事なリアス式海岸を展開している。温暖多雨な本町は、風光明媚な景観と山の緑、海の青に恵まれたところである。



2 面積

183.31 km²

3 広袤^{ぼう}

東西 19.80km

南北 19.20km



那智勝浦町の紹介

那智勝浦町は、那智山の門前まち那智町、温泉と漁業のまち勝浦町、さらに宇久井村・色川村の4か町村が合併し、昭和30年4月に誕生しました。その後昭和35年1月に下里町・太田村が加わり現在の姿となっています。

以来、自然を保護し、天与の景観を守りつつ、「豊かで、明るく、住みよい町」の実現へ向けて歩み続けている。

町 章



町花 つつじ



町木 かし



管内案内図



令和6年4月1日現在		消防本部・消防署	消防分団屯所
面積	183.31 km ²		
人口	13,628人	消防本部	消防分団屯所
男	6,391人		
女	7,237人	消防分団屯所	消防分団屯所
世帯	7,421世帯		

※町人口に外国人登録者（令和6年4月1日現在）を含めています。

那智勝浦町消防の沿革

明治 39 年		私設天満消防組創設、75 人
明治 40 年	4 月	那智消防組創設
明治 41 年	4 月	勝浦消防組創設、65 人
明治 42 年		私設井関消防組創設、50 人 (この時期各町村は、消防組を組織する。)
昭和 4 年		下里消防組に消防タービン式ポンプ配置
昭和 7 年		勝浦消防組に消防自動車(米国製フォード V18 型四輪車)配置
昭和 8 年		勝浦消防組に消防艇「白龍」(約 3t、ポンプ 1 基、エンジン 1 基)配置
昭和 9 年	9 月	町の議決を経て、私設那智消防組を公設消防組に改編
昭和 14 年	4 月	勅令第 20 号、警防団令に基づき各町村は、消防組を警防団に改編
昭和 17 年		那智町警防団に消防自動車配置
昭和 19 年	12 月	7 日、東南海地震発生(M8.0、当町における死者 34 人、行方不明者 4 人、流出家屋 218 棟)
昭和 21 年	12 月	21 日、南海道地震発生(M8.1、新宮市では倒壊家屋続出)
昭和 22 年	10 月	消防団令に基づき、各町村の警防団を消防団に改編
昭和 24 年	7 月	勝浦町消防団所属第 2 号消防艇「白龍」進水
昭和 28 年		下里町消防団に小型動力ポンプ配置
昭和 30 年	4 月	4 か町村合併に伴い、那智勝浦町消防団発足(4 個分団、256 人) 旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ配置
昭和 33 年	7 月	消防相互応援協定締結(那智勝浦町・新宮市・古座町・古座川町・太地町・本宮町・熊野川町・北山村・下里町・太田村)
昭和 35 年	1 月	下里町・太田村の編入により、那智勝浦町消防団は 6 個分団、366 人となる。
	4 月	6 個分団発足となり、実員数は 360 人となる。
	10 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞ TX631 改型)配置
昭和 36 年		旧第 2 分団(那智)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)配置
昭和 38 年		旧第 3 分団(宇久井)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)配置
	10 月	旧第 5 分団(下里)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)配置
	12 月	旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ TXG10 改型)配置
昭和 39 年	2 月	旧第 6 分団(太田)に小型動力ポンプ(トヨタ V30AS 型、B-3 級)配置
	10 月	旧第 5 分団(下里-浦神東)に小型動力ポンプ(トヨタ V30AS 型、B-3 級)配置
昭和 41 年		旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタ VM 型、B-3 級)配置
昭和 42 年		旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)配置
	11 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(トヨタ FJ45 改型)配置
昭和 43 年	10 月	15 日、第 1 回全国消防操法大会出場(於：駒沢オリンピック公園、那智勝浦町消防団)

	12 月	消防団本部庁舎(旧第 1 分団勝浦屯所併設。鉄筋コンクリート 2 階建、延 272 m ²) 竣工
昭和 44 年	10 月	消防団員の定員数を 380 人に増員 旧第 1 分団(勝浦)に化学消防ポンプ自動車(いすゞ TXG10 改型、A-2 級)配置
	11 月	16 日、第 1 回和歌山県消防操法大会出場(於:白浜町)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
昭和 45 年	11 月	旧第 3 分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(トヨタ FJ55V 改型、A-2 級)配置
	12 月	旧第 3 分団(宇久井)に消防車庫竣工(鉄筋モルタル造、平屋建、延 36 m ²) 旧第 1 分団(勝浦)に第 3 号消防艇「白龍」配置(総 t 数 14.51t 総事業費 12,110 千円)
昭和 46 年	3 月	消防団本部に勝浦マータークラブ寄贈の広報車(トヨタ RT68V 改型)配置
	8 月	旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(トヨタ FJ55V 型、A-2 級)配置
	11 月	旧第 5 分団(下里)に消防ポンプ自動車(トヨタ FJ55V 型、A-2 級)配置
昭和 47 年	7 月	旧第 6 分団(太田)に消防ポンプ自動車(トヨタ FJ55V 型、A-2 級)配置
	8 月	旧第 4 分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(トヨタ RN20 改型)配置
昭和 48 年	7 月	役場厚生課に農協共済寄贈の救急自動車(ニッサン VPC110 改型)配置
	10 月	旧第 4 分団(色川)に消防車庫竣工(鉄筋モルタル造、平屋建、延 24 m ²)
昭和 49 年	4 月	自治省告示第 80 号により、消防本部・消防署の設置指定される。
昭和 50 年	4 月	那智勝浦町消防本部・消防署発足、消防団本部庁舎にて業務開始 (消防職員の条例定数 20 人) 消防職員 20 人 消防ポンプ自動車(A-2 級)1 台 救急自動車(農協共済寄贈)1 台 小型動力ポンプ(C-1 級)1 台
	9 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞ SBR320 改型、A-2 級)配置
	10 月	消防本部・消防署庁舎竣工(鉄筋コンクリート造、2 階建、延 690.65 m ²) 消防署に日本船舶振興会寄贈の救急自動車(トヨタ RH11V 型)配置
昭和 51 年	3 月	消防職員の条例定数 30 人に増員
	5 月	旧第 4 分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツ V38A 型、B-3 級)配置
	7 月	旧第 5 分団(下里-浦神東)に消防器具庫竣工(コンクリートブロック造、平屋建、延 23.38 m ²)
	8 月	旧第 2 分団(那智-天満)に消防車庫竣工(鉄骨造、平屋建、延 45.47 m ²)
昭和 52 年	3 月	消防署に日本損害保険協会寄贈の消防ポンプ自動車(ニッサン FH60 型、A-1 級)配置
	9 月	消防署に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞ SCR320 改型、A-2 級)配置
	10 月	紀南消防相互応援協定締結、加盟 5 消防本部(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市)

	11 月	旧第 2 分団(那智-朝日)に小型動力ポンプ(トハツ V38A 型、B-3 級)配置
昭和 53 年	12 月	消防署に 30m 級(32m)梯子付消防ポンプ自動車(日野 TC343 改型、A-1 級、総事業費 57,700 千円)配置
昭和 54 年	10 月	本宮町消防本部発足に伴い、昭和 52 年 10 月 1 日締結の紀南消防相互応援協定に加盟、6 消防本部となる(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市・本宮町)。
	12 月	旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ KSCR320 改型、A-2 級)配置
昭和 55 年	7 月	用務員 1 人増員
	11 月	旧第 2 分団(那智-朝日)に消防ポンプ自動車(いすゞ KTLD44 改型、B-1 級)配置
	12 月	消防署に小型動力ポンプ(トハツ V15A 型、C-1 級)配置
昭和 56 年	3 月	旧第 2 分団(那智-天満 728 の 1)に消防屯所竣工(鉄骨造、2 階建、延 105.60 m ²)
	7 月	旧第 3 分団(宇久井)及び旧第 5 分団(下里-天満)に小型動力ポンプ(トハツ V50C 型、B-3 級)各 1 配置
昭和 57 年	3 月	消防署に日本損害保険協会寄贈の救急自動車(トヨタ J-RH45VB 型)配置 表示公表制度施行による第 1 回消防適マーク交付(交付率 31%)
	5 月	消防本部に勝浦マタークラブ寄贈の消防広報車(トヨタ L-TX67U 改型)配置
	7 月	旧第 2 分団(那智-市野々)に小型動力ポンプ(トハツ V50C 型、B-3 級)配置
	9 月	救急医療情報システム業務開始
	10 月	旧第 5 分団(下里)の下里青年研修所敷地内に消防器具倉庫竣工(軽量鉄骨造、平屋建、延 5.5 m ²)
昭和 58 年	3 月	県化学消火薬剤備蓄タンク竣工(消防本部敷地内、内容量 20.337 m ³)
	4 月	消防団を 8 個分団に改編
昭和 59 年	4 月	第 3 代消防長 岩淵芳一就任、第 2 代消防署長 田原道夫就任
	7 月	消防本部及び消防署の機構改編
	8 月	第 3 分団(二河)第 7 分団(高芝)第 8 分団(小匠)に小型動力ポンプ(トハツ V50C 型、B-3 級)各 1 台配置
	12 月	第 5 分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(いすゞ P-NKR57E2N 改型、A-2 級)配置
昭和 60 年	2 月 8 日	、日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞(那智勝浦町消防団)
	7 月 1 日	、勝浦幼稚園幼年消防クラブ結成(総員 117 人)
	8 月	第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツ V50D 型、B-3 級)配置 第 2 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ P-NKR57E2N 改型、A-2 級)配置

- 昭和 61 年 8 月 3 日、第 11 回和歌山県消防ポンプ 操法大会出場(於:那智勝浦町)小型ポンプ の部、第 3 位入賞(那智勝浦町消防団)
第 4 分団(井関)に日本消防協会寄贈の小型動力ポンプ 付積載車(トヨタ L-YH80 改型、トハツ V60BS 型、B-2 級)配置
- 11 月 第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ 積載車(M-YY61 改型)配置
第 7 分団(浦神東)に小型動力ポンプ (トハツ V50C 型、B-3 級)配置
- 昭和 62 年 1 月 5 日～3 月 30 日の間、梯子車オーバーホール実施
3 月 消防署に救急車(トヨタ L-YH71VB 型、1,998cc)配置
4 月 10 日、(財)日本造船技術センターに消防艇の設計委託
10 月 28 日、消防艇「はくりゅう」起工(勝浦船渠株式会社)
12 月 21 日、第 4 号消防艇「はくりゅう」(総 t 数 19t、109,000 千円)進水
- 昭和 63 年 1 月 9 日、第 4 号消防艇「はくりゅう」竣工
2 月 消防署に油圧救助器具 1 式配置(濱地利三朗氏寄贈)
3 月 消防署に司令広報車配置(トヨタ N-LX76V 改型、2,400cc)(濱地利三朗氏寄贈)
那智勝浦町防災行政無線システム完成運用開始
8 月 7 日、第 12 回和歌山県消防ポンプ 操法大会出場(於:高野町)ポンプ 車の部、優勝(那智勝浦町消防団)
第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ (トハツ V50D 型、B-3 級)配置
9 月 6 日、局地的集中豪雨により那智川が氾濫、川関地区を中心に床上、床下浸水被害続出
10 月 消防職員の条例定数 32 人に増員
第 2 分団(勝浦)に小型動力ポンプ (リベット P303B 型、C-1 級)配置
第 4 分団(天満)に小型動力ポンプ (トハツ V20B 型、C-1 級)配置
第 8 分団(太田)に小型動力ポンプ (トハツ V50D 型、B-3 級)配置
11 月 第 7 分団(下里)に消防ポンプ 自動車(いすゞ P-NKR58E2N 改型、A-2 級)配置
- 平成元年 2 月 消防本部通信指令室に全国消防共通波及び防災相互通信波専用基地局を整備
8 月 消防署に非常電源設備設置
- 平成 2 年 1 月 第 1 分団(勝浦)に水槽付消防ポンプ 自動車(いすゞ P-FRR12AV 改型、A-2 級)配置
2 月 第 3 分団(二河)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ 積載車(スバル M-KT6 改型)配置
3 月 第 3 代消防長 岩淵芳一退任
4 月 第 4 代消防長(心得)兼消防署長 田原道夫就任
7 月 9 日、第 4 代消防長兼消防署長 田原道夫就任
8 月 1 日、和歌山県防災行政無線システム本運用開始
9 月 19 日夜半、大型台風 19 号白浜町に上陸、本町に多大な被害をもたらす。
10 月 女性消防団員採用(22 人)

- 11 月 第 7 分団(浦神東)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ 積載車(スバル V-KS4 改型)配置
20 日、女性消防団員入団式挙行(於:町体育文化会館)
- 12 月 第 8 分団(太田南大居)に消防ポンプ 自動車(いすゞU-NKS58GR 型、A-2 級)配置
- 平成 3 年 2 月 8 日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ 表彰受賞
- 4 月 消防署交替制勤務者の変則三部制実施
救急救命士法施行(救急隊員の行う応急処置の範囲拡大)
- 8 月 第 3 代消防署長 住野晃久就任
- 11 月 第 7 分団(下里天満)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ 積載車(スバル V-KS4 改型)配置
- 12 月 消防署に CD- I 型、A-2 級、4WD 式、消防ポンプ 自動車 (いすゞU-NKS58GR 改型)配置
- 平成 4 年 3 月 宇久井コミュニティ消防センター竣工(2 階建、延 63.06 m²)
太田コミュニティ消防センター竣工(2 階建、延 64.97 m²)
- 8 月 2 日、第 14 回和歌山県消防ポンプ 操法大会出場(於:有田市)小型ポンプ の部優勝(那智勝浦町消防団)
- 9 月 第 7 分団(浦神)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ 積載車(スバル V-KS4 改型)配置
- 10 月 14 日、第 13 回全国消防操法大会出場(於:横浜市)小型ポンプ の部入賞、優良賞受賞(那智勝浦町消防団)
- 12 月 色川コミュニティ消防センター竣工(2 階建、延 53.73 m²)
第 4 分団 (天満) に CD- II 型、A-2 級、消防ポンプ 自動車 (いすゞU-FRR32DB 型) 配置
- 平成 5 年 1 月 5 日～3 月 31 日の間、梯子車オーバーホール実施(2 回目)
- 4 月 消防職員の週 40 時間勤務体制実施に伴い、消防署交替制勤務者の変則三部制が完全三部制となる。
- 5 月 消防署に救急車(いすゞT-WFR12FVH 改型)配置(日本消防協会寄贈)
- 7 月 紀南消防相互応援協定に 3 消防本部が新規加盟、(近隣 9 消防本部となる。)田辺市・大辺路消防組合・白浜町・串本町・古座川消防組合・那智勝浦町・新宮市・本宮町・熊野市
- 10 月 消防署に IA 型、A-2 級、水槽付き消防ポンプ 自動車 (いすゞU-FRR32DBV 改型)配置
- 12 月 第 4 分団(井関)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ 積載車(スバル V-KS4 改型)配置
- 平成 6 年 3 月 天満コミュニティ消防センター竣工(平屋建、延 38.99 m²)
- 11 月 消防署に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ、動力噴霧機積載車(スバルスーパーチャージャー)配置
- 12 月 第 3 分団(須崎)に CD- I 型、A-2 級、消防ポンプ 自動車(いすゞU-NKR66GN 改型)小型動力ポンプ (トハツ V-46A 型)各 1 台配置

- 平成 7 年
- 1 月 兵庫県南部地震災害に緊急消防援助隊派遣、活動地神戸市須磨区及び長田区、第一次派遣隊(4 人)1 月 18 日～1 月 21 日(4 日間)第二次派遣隊(4 人)1 月 21 日～1 月 23 日(3 日間)出動車両、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、主な活動内容は消火活動及び人命救助活動
 - 3 月 消防団(第 1 分団～第 8 分団)車両に受令機 9 機設置
 - 8 月 消防団(第 1 分団～第 8 分団)車両に受令機 7 機設置
 - 9 月 3 日、町総合防災訓練(木戸浦・浜浦島所有地)
 - 10 月 消防職員の条例定数 40 人に増員
 - 12 月 第 1 分団(勝浦)に CD-Ⅰ型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞ KC-NKR71GN 改型)配置
- 平成 8 年
- 3 月 第 3 分団(二河)に車庫、資機材備蓄倉庫設置(木造平屋建 24.09 m²)
消防署資機材倉庫建設(木造平屋建 20.16 m²)
 - 4 月 消防本部、消防署の機構改革(本部 3 課 7 係、消防署 3 班 9 係)
 - 8 月 聴覚障害者緊急通報用ファクシミリ運用開始
 - 10 月 消防団本部に可搬消防ポンプ付軽積載車配置(日本消防協会寄贈)
- 平成 9 年
- 2 月 消防署に A-2 級、Ⅱ型化学消防ポンプ自動車(いすゞ KC-FSR33G2V 改型)配置
 - 3 月 無線中継基地局(しょうぼうみょうほう)妙法山に設置
第 4 代消防長 田原道夫 退任
 - 4 月 第 5 代消防長 森本桂司 就任
 - 6 月 消防団司令広報車 1 台配置
 - 11 月 消防署前面土地を購入し、梯子車等の訓練用地を確保(371.23 m²)
- 平成 10 年
- 2 月 消防署に司令広報車配置(トヨタ KD-KZN 型、2,980cc)
(全日本消防人共済会寄贈)
 - 3 月 第 6 分団(色川)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ積載車(スバル V-KS4 改型)配置
 - 4 月 消防団無線機 52 機配備運用開始(消防団波)
 - 6 月 携帯電話からの 119 通報、県下 4 ブロックに分けて運用開始、当消防本部は田辺市消防本部を代表とする紀南ブロックに属する。
 - 7 月 第 17 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:上富田町)小型ポンプの部優勝(第 3 分団)
 - 10 月 勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
 - 11 月 消防署に CD-Ⅰ型、A-1 級、4WD、消防ポンプ自動車(いすゞ KC-KS71GR 型)配置(日本損害保険協会寄贈)
- 平成 11 年
- 3 月 消防署に高規格救急自動車(トヨタ CB-VCH38S 型、4WD、3,370cc)配置
那智勝浦町コミュニティ消防センター竣工(鉄骨造 2 階建、延 553.02 m²)
 - 10 月 消防艇「はくりゅう」主機関・高速エンジン 2 基オーバーホール実施(10 月 25 日～11 月 30 日)
- 平成 12 年
- 1 月 梯子車オーバーホール実施(1 月 17 日～3 月 30 日)(3 回目)

- 4 月 消防吏員服制規程の改正
- 6 月 第 23 回東牟婁郡消防大会・第 18 回東牟婁郡消防操法大会が本町木戸浦グラウンドにて開催される。
- 10 月 15 日、町総合防災訓練実施(那智漁港)
- 平成 13 年 1 月 21 世紀最初の消防出初式挙行(消防艇「はくりゅう」に県防災ヘリコプター「きしゅう」も参加し、文字どおり陸・海・空の放水訓練を実施する。)
- 3 月 那智山地区自然水貯水型消防水利施設が完成し、当該地区の水利充足率が向上する(平成 9 年度からの 4 か年継続事業)。
- 8 月 21 日、台風 11 号襲来により太田川氾濫、人的被害は免れるものの、床上浸水 145 世帯 312 人、床下浸水 111 世帯 262 人、被害総額 779,694 千円の被害が生じた。
- 12 月 那智漁港ヘリポート完成
- 平成 14 年 3 月 第 3 代消防署長 住野晃久退任
- 4 月 第 4 代消防署長 東 正通就任
消防吏員服制規程の改正によりアホロギャップ、活動服及び盛夏服貸与
- 平成 15 年 1 月 県ドクターヘリ運航開始(基地病院 和歌山県立医科大学附属病院)
- 3 月 高野小森川トンネルの非常通報装置等の通報等に関する協定の締結
- 4 月 1 日、那智勝浦町消防本部潜水隊発足、那智勝浦町消防署に配置
- 平成 16 年 3 月 第 5 代消防長 森本桂司退任
- 4 月 第 6 代消防長 楠本 實就任
- 7 月 第 20 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於・橋本市)
小型ポンプの部(第 4 分団)、ポンプ車の部(第 1 分団)ともに優勝、当日、雷雨により一時中断され、後半の部が 8 月 1 日和歌山市において開催
- 11 月 第 19 回全国消防操法大会出場(於・横浜市国際総合競技場)小型ポンプの部 入賞・敢闘賞受賞(那智勝浦町消防団)
- 12 月 昭和 53 年 12 月配置の梯子付消防ポンプ自動車廃車
- 平成 17 年 3 月 消防署に 2 台目の高規格救急自動車配置(トヨタ TC-VCH38S 型、4WD、3,370cc)
- 10 月 第 17 回全国女性消防操法大会出場(於・横浜市)
- 12 月 1 日、下里コミュニティ消防センター 竣工(鉄骨造 2 階建、延 97.90 m²)
- 平成 18 年 3 月 23 日、携帯 119 直接受信システム運用開始
- 4 月 1 日、消防本部・消防署の機構改編
- 7 月 第 21 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於・御坊市)ポンプ車の部(第 7 分団)3 位入賞
- 平成 19 年 3 月 本部に司令広報車配置(日本消防協会寄贈)、昭和 63 年配備、司令広報車廃車
第 6 代消防長 楠本 實退任
- 4 月 第 7 代消防長 東 正通就任、第 5 代消防署長 小脇邦雄就任
- 8 月 30 日、第 4 分団井関車庫竣工(鉄骨平屋建、延 24.92 m²)

- 10 月 16 日、和歌山県消防協会会長に消防団長 永田 宏就任
- 11 月 第 2 分団(勝浦)に CD- I 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞ BKG-NLS85AN 型)、小型動力ポンプ(トヨタ V20E 型、C-1 級)各 1 台配置
第 5 分団(宇久井)に CD- I 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞ BKG-NLS85AN 型)を配置
- 平成 20 年 4 月 1 日、勝浦認定こども園幼年消防クラブ結成
- 平成 21 年 4 月 消防署に救助工作車Ⅱ型(三菱 U-FK618GZW 改型)置配(愛知県西春日井広域事務組合消防本部寄贈)
- 9 月 第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタ VC52BS 型、B-3 級)配置
- 平成 22 年 3 月 消防署に高規格救急自動車(トヨタ CBF-TRH226S 型、4WD、2,690cc)配置
- 9 月 3 日、消防団第 4 分団に小型動力ポンプ付積載車(いすゞ BKG-NHS85A 型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(シボウラ SF756AZ 型、B-2 級)各 1 台を総務省消防庁より借受 29 日、消防団第 3 分団に小型動力ポンプ(トヨタ VF53AS 型、B-3 級)配置
同日、消防団第 7 分団に小型動力ポンプ(トヨタ VF53AS 型、B-3 級)2 台配置
- 平成 23 年 1 月 消防団第 6 分団に小型動力ポンプ付き積載車(いすゞ BKG-NHS85A 型、4WD、2,990 cc)、小型動力ポンプ(トヨタ VF53AS、B-3 級)配置
- 3 月 東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊派遣、派遣地は宮城県石巻市及び女川町第一次隊 3 月 12 日～17 日(6 日間)、第二次隊 3 月 15 日～20 日(6 日間)、出動車両、化学車 1 台、主な活動内容は救助活動
第 7 代消防長 東 正通退任
- 4 月 第 8 代消防長 小脇邦雄就任、第 6 代消防署長 中嶋秀和就任
- 9 月 4 日、台風 12 号による災害が発生(死者 28 人、行方不明者 1 人、全壊 103 棟、大規模半壊 105 棟、半壊 800 棟、一部破損 440 棟)
- 11 月 消防署に気象観測装置設置
- 12 月 消防署に小型動力ポンプ(トヨタ V20E 型、C-1 級)配置
第 7 分団(浦神)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイハツ EBD-S211P 型)、小型動力ポンプ(トヨタ VC52BS 型、B-3 級)各 1 台配置
消防団災害対策用資器材(チェンソー)7 機配置
- 平成 24 年 2 月 第 7 分団(下里)に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M 型)、小型動力ポンプ(トヨタ V25AS 型、B-3 級)、小型動力ポンプ(リビット P455DAN 型、B-3 級)各 1 台配置
湯川地区 甫子浦に防災倉庫設置
- 3 月 消防署に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M 型)配置
消防団災害対策用資器材(発電機等)防災倉庫に配置
- 11 月 消防署に後方支援車(トヨタ CBF-TRH226K 型)配置

- 12月 第1分団(勝浦)にCD-1型、A-2級、水槽付(900ℓ)消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M 型)配置
第8分団(南大居)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M 型)、小型動力ポンプ(トーハツ V25AS 型、B-3 級)各1台配置
- 平成 25 年 2月 第7分団(下里)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイハツ EBD-S211P 型)配置
3月 第8代消防長 小脇邦雄退任
4月 第9代消防長 中嶋秀和就任、第7代消防署長 塩崎文二就任
12月 消防署に軽積載車(三菱 GBD-U62THNSE7 型)配置
- 平成 26 年 2月 第3分団(天満)と第4分団(天満)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞエルフ TDG-NMS85AN 型)各1台配置第3分団(二河)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイハツ EBD-S211P)、小型動力ポンプ(トーハツ VF53AS 型、B-3 級)各1台配置
3月 第4分団(市野々)に小型動力ポンプ付き軽積載車(スズキ EBD-DA64V、658cc)、小型動力ポンプ(ラビット Fi8000AS 型、B-2 級)各1台を総務省消防庁より借受
朝日地区消防本部庁舎裏に防災倉庫設置
第9代消防長 中嶋秀和退任
4月 第10代消防長 塩崎文二就任、第8代消防署長 江崎光洋就任
7月 消防署にボートレーサー(ソックス社製、BOAT 14FW-GW)配備
- 平成 27 年 2月 消防署に高規格救急自動車(トヨタ CBF-TRH226S 型、4WD、2,693cc)配置
3月 第10代消防長 塩崎文二退任
4月 第11代消防長 江崎光洋就任、第9代消防署長 峯 幸生就任
- 平成 28 年 3月 消防救急デジタル無線、消防救急指令装置運用開始
第11代消防長 江崎光洋退任
4月 第12代消防長 峯 幸生就任、第10代消防署長 阪本幸男就任
7月 第26回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於・和歌山市)小型ポンプの部(第8分団)準優勝
12月 消防署に水槽付き消防ポンプ自動車(日野 SDG-GX7JGAA 型、4WD、6,403 cc)配置
- 平成 29 年 3月 第12代消防長 峯 幸生退任
4月 第13代消防長 阪本幸男就任、第11代消防署長 湯川辰也就任
- 平成 30 年 3月 消防署に潜水救助車(三菱 TPG-FEA50 型、2WD、2,998 cc)配置
第13代消防長 阪本幸男退任
4月 第14代消防長 湯川辰也就任、第12代消防署長 関谷善文就任
- 平成 31 年 2月 平成30年度全国消防団員意見発表会に和歌山県代表として選出(第4分団班長)優良賞受賞
第6分団に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイハツ EBD-S510P 型、4WD、658 cc)配置

- 3 月 本部に指揮車(トヨタ CBF-TRH226K 型、4WD、2,693cc)配置
第1分団に小型動力ポンプ付普通積載車(トヨタ LDF-KDY281 型、4WD、2,982 cc)、小型動力ポンプ(シャワラ FF500 型、B-2 級)配置
- 令和2年 6 月 消防・防災センター造成工事着手
- 令和2年 11 月 消防・防災センター庁舎工事着手
- 令和3年 11 月 消防署に高規格救急自動車(トヨタ 3BF-TRH226S 型、4WD、2690cc)配置
- 令和4年 3 月 消防・防災センター竣工
構造：鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造 敷地面積 9,201.98 m²
・庁舎棟 (建築面積 674.14 m² 床面積計 1,171.10 m²)
・車庫棟 (建築面積 405.74 m² 床面積計 461.12 m²)
・訓練塔 (建築面積 49.61 m² 床面積計 180.00 m²)
・補助訓練塔 (建築面積 29.94 m² 床面積計 63.00 m²)
・倉庫1 (建築面積 6.49 m² 延床面積 6.49 m²)
・倉庫2 (建築面積 9.23 m² 延床面積 9.23 m²)
- 令和4年 4 月 那智勝浦町消防本部庁舎移転
- 令和5年 12 月 新宮市消防本部との職員の交流開始(3か月)、相互に1人派遣
- 令和6年 1 月 能登半島地震発生に伴い、緊急消防援助隊を派遣
派遣地は、石川県穴水町及び能登町
第一次隊1月1日～5日(5日間)、第二次隊1月4日～9日(6日間)、第三次隊1月7日～10日(4日間)、出動車両は、タンク車1台、出動人員計12人、主な活動内容は救助活動
- 4 月 新宮市消防本部との職員の交流(11か月)、相互に1人派遣

歴代消防長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初 代	山縣 格	S50. 4. 1 ～ S56. 10. 13	町長兼任
2 代	生駒倫造	S56. 10. 14 ～ S59. 3. 31	町長兼任
3 代	岩淵芳一	S59. 4. 1 ～ H 2. 3. 31	
4 代	田原道夫	H 2. 4. 1 ～ H 9. 3. 31	
5 代	森本桂司	H 9. 4. 1 ～ H16. 3. 31	
6 代	楠本 實	H16. 4. 1 ～ H19. 3. 31	
7 代	東 正通	H19. 4. 1 ～ H23. 3. 31	
8 代	小脇邦雄	H23. 4. 1 ～ H25. 3. 31	
9 代	中嶋秀和	H25. 4. 1 ～ H26. 3. 31	
10 代	塩崎文二	H26. 4. 1 ～ H27. 3. 31	
11 代	江崎光洋	H27. 4. 1 ～ H28. 3. 31	
12 代	峯 幸生	H28. 4. 1 ～ H29. 3. 31	
13 代	阪本幸男	H29. 4. 1 ～ H30. 3. 31	
14 代	湯川辰也	H30. 4. 1 ～ 現 在	

歴代消防署長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初 代	岩淵芳一	S50. 4. 1 ～ S59. 3. 31	
2 代	田原道夫	S59. 4. 1 ～ H 3. 7. 31	
3 代	住野晃久	H 3. 8. 1 ～ H14. 3. 31	
4 代	東 正通	H14. 4. 1 ～ H19. 3. 31	
5 代	小脇邦雄	H19. 4. 1 ～ H23. 3. 31	
6 代	中嶋秀和	H23. 4. 1 ～ H25. 3. 31	
7 代	塩崎文二	H25. 4. 1 ～ H26. 3. 31	
8 代	江崎光洋	H26. 4. 1 ～ H27. 3. 31	
9 代	峯 幸生	H27. 4. 1 ～ H28. 3. 31	
10 代	阪本幸男	H28. 4. 1 ～ H29. 3. 31	
11 代	湯川辰也	H29. 4. 1 ～ H30. 3. 31	
12 代	関谷善文	H30. 4. 1 ～ 現 在	

歴代消防団長

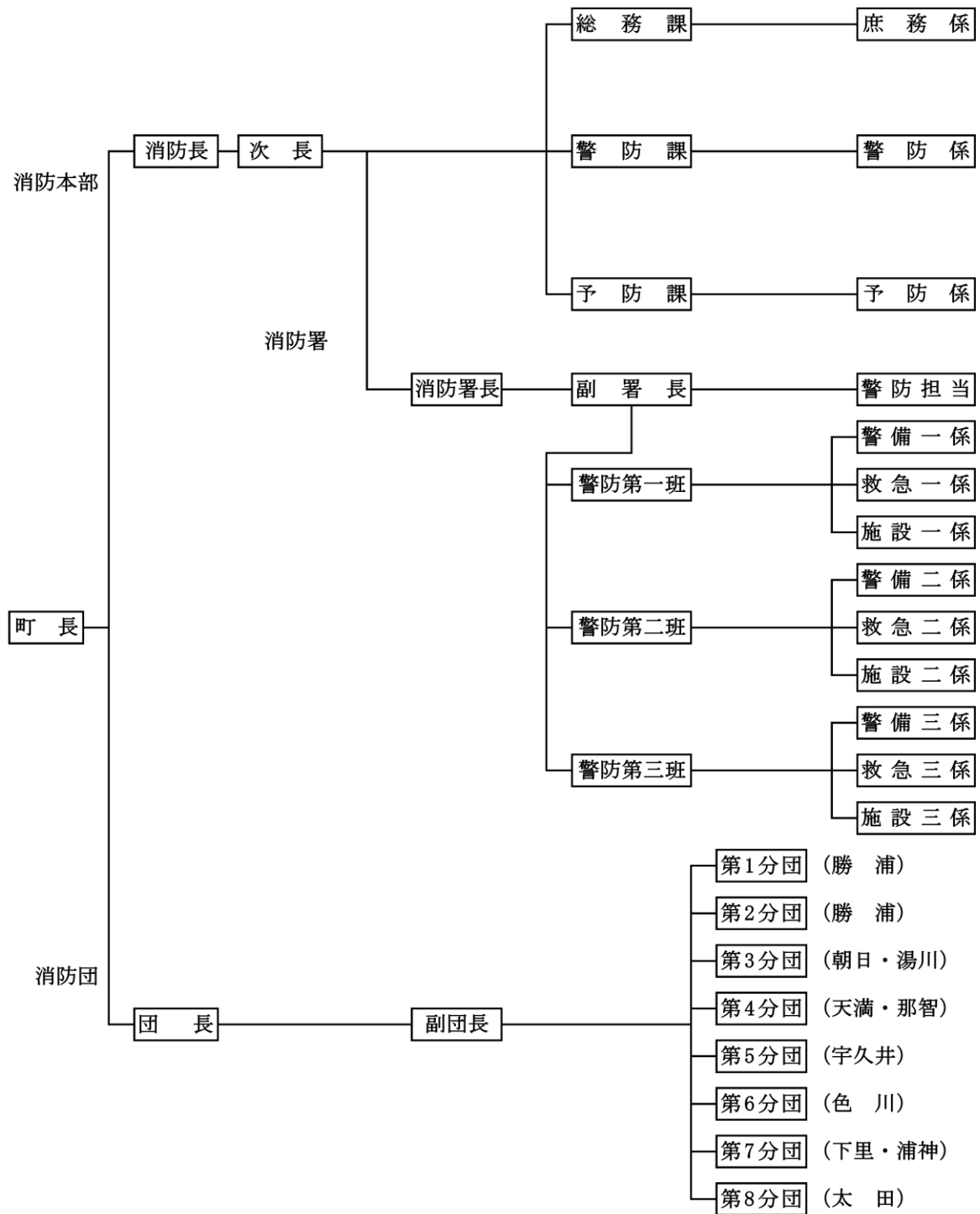
歴代	氏名	在職期間	備考
初代	村田定平	S30. 4. 1 ～ S32. 2. 8	
2代	根山英治	S32. 2. 25 ～ S49. 6. 30	
3代	久司正男	S49. 7. 1 ～ S57. 4. 1	
4代	田中熊市	S57. 4. 2 ～ H 7. 10. 31	
5代	清水美幸	H 7. 11. 1 ～ H 9. 10. 31	
6代	永田 宏	H 9. 11. 1 ～ H21. 3. 31	
7代	前地俊秀	H21. 4. 1 ～ H27. 3. 31	
8代	貝岐昌志	H27. 4. 1 ～ R 2. 3. 31	
9代	下地将仁	R 2. 4. 1 ～ 現在	

歴代消防副団長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	塩崎正夫	S30. 4. 1 ～ S34. 7. 20	
	久司正男	S30. 4. 1 ～ S32. 2. 24	
2代	久司正男	S32. 2. 25 ～ S49. 6. 30	
	鳥羽山藤夫	S35. 1. 11 ～ S46. 12. 15	
3代	田中熊市	S49. 7. 1 ～ S57. 4. 1	
	榎本哲修	S49. 7. 1 ～ S57. 4. 1	
4代	榎本哲修	S57. 4. 2 ～ H 4. 3. 31	
	藤本 繁	S57. 4. 3 ～ H 2. 3. 31	
5代	後呂信喜	H 2. 4. 1 ～ H 7. 10. 31	
	清水美幸	H 4. 4. 1 ～ H 7. 10. 31	
6代	後呂信喜	H 7. 11. 1 ～ H 9. 10. 29	
	永田 宏	H 7. 11. 7 ～ H 9. 10. 31	
7代	津木 拓	H 9. 11. 1 ～ H13. 3. 31	
	丸山規賓	H 9. 11. 1 ～ H13. 3. 31	
8代	丸山規賓	H13. 4. 1 ～ H20. 3. 31	
	倉本満夫	H13. 4. 1 ～ H20. 3. 31	
9代	丸山規賓	H20. 4. 1 ～ H21. 3. 31	
	竹原昌男	H20. 4. 1 ～ H21. 3. 31	
10代	畑 哲也	H21. 4. 1 ～ H24. 3. 31	
	村上幸弘	H21. 4. 1 ～ H24. 3. 31	
11代	畑 哲也	H24. 4. 1 ～ H26. 3. 31	
	貝岐昌志	H24. 4. 1 ～ H26. 3. 31	
12代	貝岐昌志	H26. 4. 1 ～ H27. 3. 31	
	下地将仁	H26. 4. 1 ～ H27. 3. 31	
13代	下地将仁	H27. 4. 1 ～ R 2. 3. 31	
	丸山高史	H27. 4. 1 ～ R 2. 3. 31	
14代	丸山高史	R 2. 4. 1 ～ R 3. 3. 31	
	清水重良	R 2. 4. 1 ～ R 3. 3. 31	
15代	清水重良	R 3. 4. 1 ～ R 6. 3. 31	
	山路 弘	R 3. 4. 1 ～ R 6. 3. 31	
16代	清水重良	R 6. 4. 1 ～ 現在	
	和田 司	R 6. 4. 1 ～ 現在	

消 防 組 織 図

令和6年4月1日



消防本部の事務分掌

総務課

庶務係

- 1 人事及び給与に関すること。
- 2 儀式、行事及び会議に関すること。
- 3 公印及び文書に関すること。
- 4 条例、規則等の制定及び改廃に関すること。
- 5 予算、決算及び経理に関すること。
- 6 服務、分限、懲戒、表彰等に関すること。
- 7 福利厚生及び衛生管理に関すること。
- 8 消防情報、統計及び記録に関すること。
- 9 消防関係施設、消防車両及び消防機器に関すること。
- 10 消防団に関すること。
- 11 消防職員委員会に関すること。
- 12 消防長会及び消防協会に関すること。
- 13 他の課及び係に属しないこと。

予防課

予防係

- 1 火災予防の対策及び広報に関すること。
- 2 予防査察及び防火指導に関すること。
- 3 消防用設備等に関すること。
- 4 防火管理に関すること。
- 5 建築物の確認及び許認可の同意に関すること。
- 6 幼年消防クラブに関すること。
- 7 危険物施設の規制に関すること。
- 8 危険物の規制に関すること。
- 9 火薬類の規制に関すること。
- 10 高圧ガスの規制に関すること。
- 11 液化石油ガスの規制に関すること。
- 12 少量危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- 13 火気使用設備の規制に関すること。
- 14 電気設備の規制に関すること。
- 15 前項に掲げるもののほか、予防事務に関すること。

警防課

警防係

- 1 災害現場の指揮及び支援に関すること。
- 2 緊急消防援助隊及び消防相互応援協定に関すること。
- 3 消防活動及び訓練の管理に関すること。
- 4 和歌山県防災ヘリコプターに関すること。
- 5 消防艇の運航計画及び管理に関すること。
- 6 防災に関すること。
- 7 消防水利に関すること。
- 8 救急隊員の資格及び救急記録に関すること。

- 9 救急業務協力者に係る損害補償に関すること。
- 10 医療機関等との連絡に関すること。
- 11 救助活動に関すること。
- 12 指令システム及び通信機器に関すること。
- 13 防災行政無線放送の運用に関すること。
- 14 災害通信記録及び気象観測に関すること。
- 15 前項に掲げるもののほか、警防事務に関すること。

消防署の事務分掌

警備係

- 1 火災及びその他の災害に関すること。
- 2 火災調査に関すること。
- 3 救助に関すること。
- 4 水防に関すること。
- 5 警防対策、訓練及び演習に関すること。
- 6 警防調査に関すること。
- 7 那智勝浦町火災予防条例に基づく火煙上昇の行為、催物の開催及び露店等の開設の届出の受理に関すること。
- 8 防火指導その他の防火対策及び防災福祉に関すること。
- 9 消防団、自主防災組織、事業所の自衛消防隊等の指導に関すること。
- 10 震災時（津波を含む）の災害等危険度要因の調査に関すること。
- 11 紀南消防署長会に関すること。
- 12 庁舎案内（見学）に関すること。
- 13 署対象表彰等及び実態調査に関すること。
- 14 署内庶務及び他の係に属しないこと。

救急係

- 1 救急業務に関すること。
- 2 救急資機材、救急医療品等の管理に関すること。
- 3 救急病院等との連絡に関すること。
- 4 救急搬送証明に関すること。
- 5 応急手当の普及啓発の計画及び実施に関すること。
- 6 救急医療情報システムの運用に関すること。
- 7 危害情報の収集及び分析に関すること。

施設係

- 1 消防水利に関すること。
- 2 消防車両、機器及び装備の管理に関すること。
- 3 燃料に関すること。
- 4 機関員の技能管理に関すること。
- 5 気象に関すること。
- 6 庁舎及び付属施設の管理に関すること。
- 7 防災行政無線、指令システム及び通信機器の運用に関すること。

消防職員数の推移

令和 6 年 4 月 1 日

年度	消防職員数		備 考
	定数	実員	
昭和 50 年 4 月	20 人	20 人	那智勝浦町消防本部・署発足 6 月 1 人減、昭和 51 年 2 月 1 人増
昭和 51 年 4 月	30 人	26 人	昭和 51 年 3 月定数 30 人に増、4 月 6 人増
昭和 52 年 4 月	30 人	26 人	5 月 4 人増
昭和 54 年 4 月	30 人	30 人	6 月 1 人減
昭和 57 年 4 月	30 人	29 人	7 月 1 人減・2 人増
昭和 63 年 4 月	30 人	29 人	10 月定数 32 人に増・2 人減 3 人増
平成 元 年 4 月	32 人	30 人	4 月 2 人増・10 月 2 人減
平成 2 年 4 月	32 人	29 人	4 月 1 人減・6 月 1 人減・1 人増
平成 3 年 4 月	32 人	29 人	
平成 4 年 4 月	32 人	31 人	4 月 2 人増
平成 5 年 4 月	32 人	31 人	
平成 6 年 4 月	32 人	32 人	4 月 1 人増
平成 7 年 4 月	32 人	32 人	10 月定数 40 人に増
平成 8 年 4 月	40 人	35 人	4 月 3 人増
平成 9 年 4 月	40 人	36 人	4 月 2 人減・3 人増
平成 10 年 4 月	40 人	38 人	4 月 2 人増
平成 11 年 4 月	40 人	39 人	4 月 1 人増
平成 12 年 4 月	40 人	38 人	4 月 1 人減
平成 13 年 4 月	40 人	38 人	4 月 1 人減・1 人増
平成 14 年 4 月	40 人	38 人	4 月 1 人減・1 人増
平成 15 年 4 月	40 人	39 人	4 月 1 人減・2 人増
平成 16 年 4 月	40 人	40 人	4 月 1 人減・2 人増
平成 17 年 4 月	40 人	39 人	4 月 1 人減
平成 18 年 4 月	40 人	39 人	
平成 19 年 4 月	40 人	39 人	4 月 1 人減・1 人増
平成 20 年 4 月	40 人	39 人	
平成 21 年 4 月	40 人	39 人	
平成 22 年 4 月	40 人	39 人	10 月 1 人増
平成 23 年 4 月	40 人	39 人	4 月 3 人減・2 人増
平成 24 年 4 月	40 人	40 人	4 月 1 人増
平成 25 年 4 月	40 人	40 人	4 月 3 人減・3 人増
平成 26 年 4 月	40 人	40 人	4 月 2 人減・2 人増
平成 27 年 4 月	40 人	40 人	4 月 2 人減・2 人増
平成 28 年 4 月	40 人	40 人	4 月 1 人減・1 人増
平成 29 年 4 月	40 人	40 人	4 月 3 人減・3 人増、6 月 1 人減、平成 30 年 1 月 1 人減
平成 30 年 4 月	40 人	39 人	4 月 2 人減・3 人増
平成 31 年 4 月	40 人	40 人	4 月 1 人増
令和 2 年 4 月	40 人	40 人	
令和 3 年 4 月	40 人	40 人	9 月 1 人減
令和 4 年 4 月	40 人	40 人	4 月 1 人増・6 月 1 人減
令和 5 年 4 月	40 人	40 人	4 月 1 人増
令和 6 年 4 月	40 人	40 人	

消防団員数の推移

令和 6 年 4 月 1 日

年 度	消防団員数		備 考	年 度	消防団員数		備 考
	定数	実員			定数	実員	
明治 39 年 4 月		75 人	私設天満消防組創設	平成 14 年 4 月		297 人	(32)
明治 40 年 4 月			那智消防組創設	平成 15 年 4 月		295 人	(32)
明治 41 年 4 月		65 人	勝浦消防組創設	平成 16 年 4 月		286 人	(30)
明治 42 年 4 月		50 人	私設井関消防組創設	平成 17 年 4 月		291 人	(29)
昭和 30 年 4 月		256 人	那智勝浦町消防団 発足 4 個分団	平成 18 年 4 月		287 人	(30)
昭和 35 年 4 月	380 人	360 人	那智勝浦町消防団 発足 6 個分団	平成 19 年 4 月		286 人	(31)
昭和 40 年 4 月		370 人		平成 20 年 4 月		280 人	(29)
昭和 45 年 4 月		376 人		平成 21 年 4 月		272 人	(29)
昭和 50 年 4 月		366 人		平成 22 年 4 月	323 人	264 人	(28)
昭和 55 年 4 月		361 人		平成 23 年 4 月		267 人	(30)
昭和 58 年 4 月		347 人	那智勝浦町消防団 発足 8 個分団	平成 24 年 4 月		259 人	(32)
平成 元 年 4 月		330 人		平成 25 年 4 月		248 人	(27)
平成 2 年 4 月		320 人	10 月女性消防団員 採用 22 人	平成 26 年 4 月		242 人	(24)
平成 3 年 4 月		341 人	(23)	平成 27 年 4 月		241 人	(23)
平成 4 年 4 月		331 人	(23)	平成 28 年 4 月		237 人	(22)
平成 5 年 4 月		325 人	(24)	平成 29 年 4 月		240 人	(22)
平成 6 年 4 月		327 人	(24)	平成 30 年 4 月		239 人	(22)
平成 7 年 4 月		322 人	(24)	平成 31 年 4 月		237 人	(21)
平成 8 年 4 月		325 人	(24)	令和 2 年 4 月		219 人	(22)
平成 9 年 4 月		317 人	(25)	令和 3 年 4 月		221 人	(20)
平成 10 年 4 月		310 人	(26)	令和 4 年 4 月	290 人	221 人	(19)
平成 11 年 4 月		318 人	(29)	令和 5 年 4 月		217 人	(20)
平成 12 年 4 月		314 人	(31)	令和 6 年 4 月		213 人	(24)
平成 13 年 4 月		313 人	(32)				

※（ ）内は女性消防団員数